

上北地区統合校開設準備委員会報告書

令和2年1月21日

上北地区統合校開設準備委員会

令和2年1月21日

青森県教育委員会
教育長 和嶋 延寿 殿

上北地区統合校開設準備委員会
委員長 長谷川 光治

上北地区統合校開設準備委員会の協議内容について（報告）

本開設準備委員会で、これまで協議した内容を次のように取りまとめましたので報告します。

1 上北地区統合校開設準備委員会の設置趣旨及び協議について

上北地区統合校開設準備委員会（以下「開設準備委員会」という。）は、平成29年7月に策定した青森県立高等学校教育改革推進計画第1期実施計画に基づき、令和3年度の県立十和田西高等学校、県立六戸高等学校及び県立三本木農業高等学校の統合による上北地区統合校の開設に必要な準備を進めるため、関係校の校長、学校関係団体の代表者などを委員として設置されたものです。

以下は、開設準備委員会で協議を行った内容ですので、県教育委員会におかれては、今後この報告書を踏まえ、上北地区統合校の開設に向けた検討を行っていただくことを望みます。

2 開設準備委員会における協議事項及び協議結果について

協議事項	協議結果
校名	<div data-bbox="397 745 1444 952" style="border: 1px solid black; padding: 10px;"> <p>「<small>さんほんぎ</small>三本木アグリフロンティア高等学校」、<small>さんほんぎたくせい</small>「三本木拓生高等学校」、<small>さんほんぎのうぎょう</small>「三本木農業高等学校」、<small>さんほんぎのうぎょうけいたく</small>「三本木農業恵拓高等学校」の4案を開設準備委員会の校名案とする。</p> </div> <p>(1) <small>さんほんぎ</small>三本木アグリフロンティア高等学校</p> <div data-bbox="397 1093 1444 1585" style="border: 1px solid black; padding: 10px;"> <p>提案理由</p> <p>○ この地域は新渡戸伝翁の開拓から始まっている。十和田市・六戸町の小・中学校では、常に開拓魂を唱え、未来の地域創生を担う子どもたちを育てている。三本木農業高校・十和田西高校・六戸高校の校歌にはそれぞれ「拓き進むは我等が使命」（三農）、「恵みの大地拓きたる先人の啓示を旨として」（十西）、「みちのくの果て広き野を、世々に人びと開き来て」（六戸）とある。地名の「三本木」に、各校の校歌に共通するテーマとする「開拓・先進」を意味する「フロンティア」と「土地・農業」を意味する接頭語「アグリ」を添えた複合語として造語した。</p> </div> <p>(2) <small>さんほんぎたくせい</small>三本木拓生高等学校</p> <div data-bbox="397 1693 1444 1995" style="border: 1px solid black; padding: 10px;"> <p>提案理由</p> <p>○ 歴史と伝統のある三本木農業高校の「三本木」を継承し、3校に共通する開拓精神から「拓」を、開拓の象徴である稲生川から「生」を用いるもの。稲生川は十和田西高校のある西側から取水し、三本木農業高校の前を通り、六戸高校のある東側まで大地を潤している。よって、統合校の校名にふさわしいと思う。</p> </div>

協議事項	協議結果
	<p data-bbox="400 297 783 349">(3) ^{さんほんぎのうぎょう}三本木農業高等学校</p> <div data-bbox="400 360 1442 1756" style="border: 1px solid black; padding: 10px;"> <p data-bbox="416 383 552 421">提案理由</p> <ul style="list-style-type: none"> <li data-bbox="416 427 1426 633">○ 他に良い校名案がなく、また、現在の通称「三農」が県内外において広く浸透しており、校名を変更するメリットがあまりないように感じられるため、無理に校名を変更することもないと思う。統合校の「中身」の変更に重点を置き、校名は変更しないということも有りうるのではないか。 <li data-bbox="416 640 1426 759">○ 120年以上の歴史を考えると「三本木農業高校」が良い。三本木農業高校は青森県農学校から始まったことから、「農」の言葉は外すわけにはいかない。 <li data-bbox="416 766 1426 931">○ 十和田西高校、六戸高校、三本木農業高校をそれぞれ一本の木と見なし、それらが集まって「三本木」とするもの。これから入学する生徒には歴史、伝統、貫禄のある「三本木農業高校」がふさわしい。 <li data-bbox="416 938 1426 1234">○ 三本木農業高校は、伝統校であると同時に、現在もなお、上北地区内外から学校の特色に大きな期待を寄せて入学してくる生徒が多い。普通科の併設により「農業高校」という校名に違和感を覚える方もいるかと思うが、社会経済を支える即戦力に秀でた人材を育成するという観点から、普通科においても職業教育の特色を加味したカリキュラムを工夫すれば、普通科を有した農業高校として十分理解してもらえるものと考える。 <li data-bbox="416 1240 1426 1507">○ 三本木農業高校は、高等学校教育改革推進計画第1期実施計画において、職業教育を主とする専門学科を持つ農業教育の拠点校となっていることから、農業の冠を外すことは得策でない。よって上北地区統合校は、普通科が設置されても、これまでの基本どおり地域名プラス専門学科の組み合わせによる「三本木農業高等学校」とした。 <p data-bbox="448 1514 1426 1733">なお、かつて三本木農業高校には農業関係学科のほかに、普通科や商業科を設置していた経緯があり、再び普通科を設置しても違和感がないこと。また、秋田県立男鹿海洋高校には普通科が、千葉県立銚子商業高校には海洋科が設置されている他県の例からも、校名は歴史や伝統、そして地域産業の背景を踏まえるべきと考えている。</p> </div>

協議事項	協議結果
	<p data-bbox="399 257 845 302">(4) <small>さんぼんぎのうぎょうけいたく</small> 三本木農業恵拓高等学校</p> <div data-bbox="399 324 1444 660" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p data-bbox="414 347 550 380">提案理由</p> <p data-bbox="414 392 1428 638">○ 3校に関わる地名として「三本木」が適当。農業教育を中心とした教育活動が展開されるであろうことから、「農業」はそのままであることが適当。伝統ある「三本木農業」「三農」の名を残しながら、3校の統合による新しい高校であることを考え「恵拓」を加えた。これは、六戸高校・十和田西高校の校歌に共通してある文字「恵」、3校に共通する開拓の精神から「拓」を用いたもの。</p> </div>

協議事項	協議結果
<p data-bbox="215 873 327 952">目指す 人財像</p>	<div data-bbox="399 878 1444 1124" style="border: 3px double black; padding: 10px;"> <p data-bbox="414 896 1428 1108">第1期実施計画で掲げる「社会の一員として地域づくりに意欲的に参画する人財」「地域資源の活用により創造的に取り組み、地域の発展に貢献する人財」「農産物の生産とその生産を支える環境、加工、流通、販売等について学び、地域産業を支える人財」の3点を基本としてもらいたい。</p> </div>

協議事項	協議結果
<p data-bbox="215 1339 327 1373">学校像</p>	<div data-bbox="399 1344 1444 1456" style="border: 3px double black; padding: 10px;"> <p data-bbox="414 1361 1428 1440">委員それぞれの意見を踏まえ、各校の特色ある教育活動の発展や施設整備などの検討を進めてもらいたい。</p> </div> <p data-bbox="399 1489 550 1523">(主な意見)</p> <ul data-bbox="399 1534 1452 2038" style="list-style-type: none"> <li data-bbox="399 1534 1452 1612">○ 統合される3校には、それぞれの伝統や良さがある。新しい学校でも良いところを引き継いでほしい。 <li data-bbox="399 1624 1452 1747">○ かつての農業は作ることが主であったが、今は売ることが作ることと同じく大事であるため、新しく学科を増やせないとしても観光の軸が出てくるような配慮ができないか。 <li data-bbox="399 1758 1452 2038">○ 最近では子どもの数が減ってきており、農業の後継者も不足している。そのような中、地域に残り自分たちの郷土として生きがいを感じるような教育を進めてほしい。 例えば、農業科の広大な農地と設備を活用し、自然を教材としながら、子どもたちの成長に役立てられないか。他の普通科では真似できない統合校特有の普通科にし、地域を自分たちで愛していく意気込みを持てるような学校像であってほしい。

協議事項	協議結果
	<p>(主な意見)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 観光や農業の新しい時代を見据えると、チャレンジ精神、コミュニケーション力、郷土愛が求められると思う。今後は、ますます複雑な時代になるので、子どもたちの能力を最大限引き出せるような学校であってほしい。 ○ これから農業に従事する者は100%大学へ進学させることを目指し、統合校では大学進学とスポーツを大きな目玉にできれば良い。 ○ 統合校の施設設備については安全安心ももちろんだが、3校が統合され新しくなるので、各校の良さを施設的に生かせる学校にしてほしい。 ○ 農業科と普通科はカリキュラムなどが異なることから、同じ学年という集団意識を高めるため、農業科と普通科の生徒が同じ学年にもかかわらず、教室の配置が離れることのないようにしてほしい。 ○ 統合校が新たな学校に変わったというイメージを打ち出すには、学習内容だけでなく、施設・設備の面で一層の環境整備が必要である。 ○ 現在、女子寮は希望しても入寮できない生徒もいる状況にあるが、普通科の生徒にも農業実習などを体験させることで大きく成長することが期待できることから、寮の新設(改修)などにより、収容人数を増やし、農業科・普通科問わず、希望する生徒は入寮できる環境を作ってほしい。

協議事項	協議結果
<p>校 訓</p>	<div style="border: 2px solid black; padding: 10px; text-align: center;"> <p>新しい学校の教育目標に沿った新たな校訓を制定する方向で検討を進めてもらいたい。</p> </div> <p>(主な意見)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 校訓は新たに制定した方が良い。各校の校訓には、「自律」や「自主」など重複しているものもある。また、四字熟語で表している校訓も意味が似ているものもある。 ○ これまでの校訓にとらわれずに考えれば良い。新しい校名案候補として「拓生」や「恵拓」などがあるため、この「拓」と三本木農業高校の校訓でも用いている「協同」を組み合わせたような校訓ができないか。また、親子兄弟といった人間関係が希薄化している社会の現状を考えると、校訓にきずなや親子愛という観点を取り入れてはどうか。 ○ 統合校は学科が農業科と普通科になるので教育内容が若干変わることとなり、これから求められる人財も当然時代とともに変わってくるので、新しい校訓を制定した方が良いのではないか。 ○ 校訓は新しくした方が良い。自分の高校の校訓を一生思って生きていくことができるような分かりやすい校訓が良いのではないか。

協議事項	協議結果
校章	<div style="border: 3px double black; padding: 10px; text-align: center;"> <p>三本木農業高校の校章をベースにデザインや解釈に修正を加える方向で検討を進めてもらいたい。</p> </div> <p>(主な意見)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 現在の三本木農業高校の校章に、十和田西高校及び六戸高校の校章にもある「高」を配置したら3校に共通した校章になるのではないかな。 ○ 三本木農業高校の校章であるクローバーが3枚並ぶ形が3校の統合に合うと思ったので、従来の校章に新たな解釈を付け加えることで、十和田西高校と六戸高校の特色を加えることになるのではないかな。 ○ 三本木農業高校の校章のままでも特段問題は生じないとも思うが、統合校になるので、対外的なことも含めれば、この校章に変化を求めることも必要ではないかな。 ○ 三本木農業高校の校章に新たな解釈を付け加えるという考えはとてもすばらしい。

協議事項	協議結果
校歌	<div style="border: 3px double black; padding: 10px; text-align: center;"> <p>三本木農業高校、六戸高校、十和田西高校の校歌を残し斉唱する場面を検討しつつ、新たな校歌を制定することを含め検討を進めてもらいたい。</p> </div> <p>(主な意見)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 青森県を代表する三本木農業高校に手を加えるわけにはいかないという思いが強いため、校歌を変えるべきではない。 ○ どの校歌もすばらしいが、校歌は新しいものにした方がよい。三本木農業高校で農業を学んでいる生徒にとっては、三本木農業高校の校歌で十分良いと思うが、普通科の生徒への配慮もあっても良いではないかな。校歌は新しくして、例えば最初の2年間は2つ歌うなどの対応は考えられないかな。 ○ まずは新しい校歌を作って、力強い三本木農業高校の校歌をどのような場で歌うのか新たに検討すれば良いのではないかな。 ○ 3校の校歌はいずれも捨てがたいので、これを存続させながら、今の生徒の音楽や言葉のセンスに合った新しい校歌を制定した方がよいのではないかな。3校の校歌について場面によって取扱いを決めていけばよい。新しい校歌を作る場合の制定方法は開設準備室で検討すればよい。

協議事項	協議結果
<p>制 服</p>	<div style="border: 2px solid black; padding: 10px; margin-bottom: 10px;"> <p>男子の制服はブレザー、学生服のどちらにするか検討した上で既存の制服から変更するかどうか検討し、女子の制服は新たな制服を制作する方向で検討を進めてもらいたい。</p> </div> <p>(主な意見)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ これから観光、農業に特化していくということであれば、ネクタイを締めていると観光客などへも案内しやすく、学生服より格好が良いと思う。十和田市内の高校の制服は大体似たような制服なので、特色を出すという点では、多少デザインが変わっても、十和田西高校のようなブレザー、ネクタイのスタイルが良いのではないかな。 ○ ネクタイにあまりこだわらない方が良いのではないかなと思うが、制服を新しくするか否かについても、こだわるつもりはない。 ○ 男子の制服は全国的にもブレザーか学生服であり、この場でどちらが良いか判断できないので、開設準備室で検討すれば良い。女子については、新たなデザインで進めていけば良い。また、3校の制服は制定当時の生地がそのまま使われているが、現在の夏服は、生地の素材が変わっているほか、デザインも変わってきているので、これらのことを踏まえ、現在の女子生徒にふさわしいような制服にしていくと良い。 ○ 男子の制服については、ブレザーと学生服のどちらが良いか分からない。女子生徒は制服が可愛い高校へ進学したいということもあるため、女子の制服については、新設校であり今までとは教育内容が変わることを示す意味でも、また、生地の効用の面からも新たに考える必要がある。例えば生徒から「どのような制服が良いか」といったアンケートを取り、それを踏まえデザイナー等に頼んで作っていただければどうか。 <p>ただし、制服については早く決めないと取扱店の対応が間に合わなくなると思うので、早めに準備を進めていただきたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 男子の制服については、三本木農業高校は海外の高校との国際交流が進んでおり、統合校においても世界各地に出るという機会が多くなると思われる。国際的な視点からの活動を考えれば、ブレザー、ネクタイの方が良いのではないかな。

協議事項	協議結果
<p>特色ある教育活動</p>	<div style="border: 2px solid black; padding: 10px; margin-bottom: 10px;"> <p>3校の特色ある教育活動を引き継ぎつつ充実した教育活動を展開できるよう、委員それぞれの意見を総合的に勘案しながら、具体的な検討を進めてもらいたい。</p> </div> <p>(主な意見)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 十和田西高校観光科で取り組んでいる十和田奥入瀬文化観光認定ガイド養成講座や、奥入瀬エコロードツアーなどでのボランティアガイド、救命講習などの取組については、統合校の普通科に観光コースなどを設置することにより引き継げるものとする。 また、十和田市秋祭りにおいて、十和田西高校の全校生徒が流し踊りに参加していることから、地域活性化のため統合校に引き継いでほしい。 ○ 十和田西高校の観光科の学びについて、単に観光ガイドをするための学びではなく、観光経済、経営等を幅広く学ぶ場として引き継ぎ、生徒募集の際には、それが見える形で示してほしい。 ○ 六戸高校では、教育課程上にボランティア活動を位置付け、「メイプルボランティア」という名称で学校設定科目となっているため、統合校の教育活動に取り入れてほしい。 また、総合的な探究の時間において、「六戸高校さつき沼ビオトープ化プロジェクト」として関係機関と協働しながらビオトープ化を目指し活動している。十和田市の一本木沢、六戸町の館野公園さつき沼、三沢市の仏沼の3つの地域を結ぶとその中心に統合校があり、理想的な教育環境が作れるため、この探究型学習のノウハウを引き継いでほしい。 ○ 三本木農業高校では、地域の伝統工芸品づくり（きみがらスリッパ等）など地域と連携した取組や、農場見学の受入れ、アンテナショップの開催などに取り組んでおり、普通科においても可能な部分で連携しながら統合校に引き継いでいければ良い。 ○ 現在の三本木農業高校の教育活動の全てを引き継ぐべきであり、それに加え十和田西高校、六戸高校の提案を取り入れて太い幹とし、それが新しい学校の特色になってほしい。 ○ 地域の祭りへの参加などボランティア活動について、上十三地域全域を視野に入れて活動してほしい。 ○ 少子高齢化問題について、高校生のおきから解決策を考えてほしい。 ○ 農業後継者や農業関連産業従事者を育てるためには、青森県営農大学校や農学部のある大学などと連携しながら、積極的な人的交流などこれまで以上のことに取り組んでいく必要がある。

協議事項	協議結果
普通科と 農業科の 連携	<div style="border: 2px solid black; padding: 10px; text-align: center;"> <p>委員それぞれの意見を踏まえ、統合校の普通科と農業科の連携促進が図られるよう検討を進めてもらいたい。</p> </div> <p>(主な意見)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 田植えや稲刈りなどの活動について可能な限り全校行事として実施することが考えられる。 農業科において生産や加工に関する学習、普通科において商業に関する科目である流通やマーケティング、販売促進などに関する学習を相互に取り入れることにより、農業の6次産業化の視点に立った教育活動が可能となるほか、商業的な視点を生かした研究活動などが可能となる。また、農業クラブの研究活動と普通科の総合的な探究の時間における取組を連携させることが考えられる。 農業科の利点である職業に直結した資格取得や、普通科の利点である大学等への進学に向けた講習などに全校で取り組むことが考えられる。 ○ 「六戸高校さつき沼ビオトープ化プロジェクト」のように、三本木農業高校にある広大な農地など学習環境を活用した探究型学習の展開が考えられる。 ○ 農業をベースとした連携とすれば、全校田植えの開催や、学習成果発表の場としてプロジェクト発表会の開催が考えられる。また、普通科の中に「観光農業」や農作業に協力する「援農」など農業科の学習を入れ込むことも大事であり、生徒の進路選択の幅を持たせるため、普通科と農業科の垣根のない進学指導を進めてほしい。

協議事項	協議結果
部活動	<div style="border: 2px solid black; padding: 10px; text-align: center;"> <p>三本木農業高校の部活動を基本としつつも、生徒のニーズに応じて対応することとし、具体的な検討を進めてもらいたい。</p> </div> <p>(主な意見)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 三本木農業高校の部活動はそのまま引き継いでもらえば良いが、六戸高校のゴルフ部や十和田西高校の空手道部など、三本木農業高校にはない部活動についても、物理的・予算的に可能であれば引き継いでほしい。

協議事項	協議結果
統合対象校間の連携	<div style="border: 2px solid black; padding: 10px; text-align: center;"> <p>教育課程の検討や部活動、学校行事など、生徒のことを考えながら3校の連携を進めてもらいたい。</p> </div> <p>(主な意見)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 観光やボランティアに関する学びを普通科に引き継ぐこととしていることから、普通科を中心に、教育課程を組んでいくことが重要だと思うので、できれば今年度中から検討を進めた方が良いでしょう。 ○ 統合対象校の在校生が望む部活動を継続させるため、3校が連携して活動できれば良い。 ○ それぞれの在校生がいるうちは、田植えや部活動、生徒の研究発表会など様々な場面で可能なところから連携できれば良い。

協議事項	協議結果
統合対象校の記念物品の展示	<div style="border: 2px solid black; padding: 10px; text-align: center;"> <p>統合校の校舎内に展示する方向とし、展示内容などについて更に精査しながら検討を進めてもらいたい。</p> </div> <p>(主な意見)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 現在のままでは展示スペースはないが、校舎の改修などにより生徒の玄関ロビーや渡り廊下などにスペースが確保できれば、3校の記念物品を校舎内に展示することができると思う。 また、現在、三本木農業高校では、100周年記念会館に歴史的記念物品の展示室を設けているが、この物品も他校のものと合わせて校舎内に置ければ良い。 付け加えて、各学校の校旗、校章、校訓の扁額などについては展示するが、学校の卒業アルバムや生徒会誌などについては図書室を利用するなど、記念物品一覧の中である程度整理しながら、一か所に限らずに保存すれば良いのではないかと。

協議事項	協議結果
<p>統合対象校の事務の引継ぎ</p>	<div style="border: 2px solid black; padding: 10px; margin-bottom: 10px;"> <p style="text-align: center;">統合対象校、統合校及び県教育委員会において十分情報を共有しながら、事務の引継ぎを進めてもらいたい。</p> </div> <p>(主な意見)</p> <p>○ 事務引継ぎに関しては、1年早く進んでいる中南地区統合校の例やこれまでも進めてきた統合の流れを踏まえ、同じ形で進めて良い。</p> <p>また、教育実習については、三本木農業高校では現在でも卒業生にこだわらず毎年10人前後の教育実習生を受け入れている状態なので、今後とも継続していければ良い。</p> <p>生徒指導要録については保存年限が決まっているので、耐火金庫の置き場所を確保してほしい。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin-top: 10px;"> <p>【参考：事務の引継方針】</p> <p>1 各種証明書の発行について 十和田西高校、六戸高校及び三本木農業高校の卒業生に対する卒業証明書や成績証明書等の各種証明書の発行については、上北地区統合校がその事務を引き継ぐ。</p> <p>なお、これまでの例にならい、3校の閉校後、令和5年度より県教育委員会ホームページに3校の卒業生向けのページを作成し、各種証明書の発行等に係る案内を掲載する。</p> <p>2 教育実習生の受入れについて 十和田西高校、六戸高校及び三本木農業高校の教育実習生については、上北地区統合校において受け入れることとする。</p> <p>なお、教育実習生の希望者が多数となるなど、上北地区統合校での受入れが困難となる場合には、県教育委員会から他の県立高等学校長へ受入れを要請する。</p> <p>3 指導要録等の引継ぎについて 指導要録、沿革に係る資料の保存・管理等については、上北地区統合校が引き継ぐ。</p> <p>その他物品の移動に関する事などについては、閉校までに統合対象校、上北地区統合校及び県教育委員会において十分情報を共有し対応することとする。</p> </div>

附 属 資 料

- 1 上北地区統合校開設準備委員会設置要綱
- 2 上北地区統合校開設準備委員会委員名簿
- 3 上北地区統合校開設準備委員会オブザーバー名簿
- 4 上北地区統合校開設準備委員会の協議経過
- 5 上北地区統合校校名案候補意見募集の結果

1 上北地区統合校開設準備委員会設置要綱

(設置)

第1 青森県立十和田西高等学校、青森県立六戸高等学校及び青森県立三本木農業高等学校（以下「関係校」と総称する。）の統合による上北地区統合校（以下「統合校」という。）の開設に必要な準備を進めるため、上北地区統合校開設準備委員会（以下「開設準備委員会」という。）を設置する。

(所掌事務)

第2 開設準備委員会は、次に掲げる事項について協議、検討し、青森県教育委員会教育長（以下「教育長」という。）に報告する。

- (1) 統合校の名称、教育活動及び目指す人財像に関する事。
- (2) その他統合校の開設準備に関する事。

(組織)

第3 開設準備委員会は、委員及びオブザーバーで組織する。

2 委員は、別記1に掲げる者のうちから教育長が委嘱する。

3 オブザーバーは、別記2に掲げる者をもって構成する。

4 オブザーバーは、開設準備委員会の会議に出席し、委員の求めに応じて情報提供するものとする。

5 第5第1項に規定する委員長は、開設準備委員会の会議に必要な資料作成等を行うため、必要に応じて、関係校の教職員で組織する作業部会を設置することができる。

(任期)

第4 委員の任期は、委嘱した日から平成32（2020）年3月31日までとする。

(委員長等)

第5 開設準備委員会に委員長及び副委員長を置く。

2 委員長及び副委員長は、委員の互選により定める。

3 委員長は、開設準備委員会を主宰する。

4 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故があるとき、又は委員長が欠けたときは、その職務を代行する。

(会議)

第6 開設準備委員会の会議は、委員長が招集する。

(庶務)

第7 開設準備委員会の庶務は、青森県教育庁高等学校教育改革推進室及び関係校において処理する。

(その他)

第8 この要綱に定めるもののほか、開設準備委員会の運営に関し必要な事項は、別に定める。

附 則

- 1 この要綱は、平成31年4月5日から施行する。
- 2 この要綱の施行後最初に開催される開設準備委員会の会議は、第6の規定にかかわらず、教育長が招集する。

別記1

開設準備委員会委員

- | |
|--|
| <ol style="list-style-type: none">1 関係校の校長の職にある者2 関係校のPTA、同窓会、後援会等のうち各校の校長が推薦した者3 十和田市及び六戸町教育委員会教育長の職にある者4 地域の学校教育関係者として学識経験を有し、教育長が特に必要と認める者 |
|--|

別記2

開設準備委員会オブザーバー

- | |
|--|
| <ol style="list-style-type: none">1 関係校の教頭及び事務長の職にある者2 関係校の教職員で校長が特に必要と認める者 |
|--|

2 上北地区統合校開設準備委員会委員名簿

(敬称略)

所 属 等	委 員 名	備 考
県立十和田西高等学校 校長	齊 藤 聖 一	
県立六戸高等学校 校長	吉 田 繁 徳	
県立三本木農業高等学校 校長	遠 藤 剛	副委員長
県立十和田西高等学校同窓会 会長	水 尻 和 幸	
県立六戸高等学校後援会 会長	岡 田 寛 紀	
県立三本木農業高等学校同窓会 会長	沼 山 喜久男	
十和田市教育委員会 教育長	丸 井 英 子	
六戸町教育委員会 教育長	瀧 口 孝 之	
元県立三本木高等学校 校長	長谷川 光 治	委員長

3 上北地区統合校開設準備委員会オブザーバー名簿

(敬称略)

所 属 等	オブザーバー名	備 考
県立十和田西高等学校 教頭	田 中 正 也	
県立十和田西高等学校 事務長	山 田 義 光	
県立十和田西高等学校 教務主任	福 島 智	
県立六戸高等学校 教頭	奈良岡 隆 樹	
県立六戸高等学校 事務長	上 村 奈加子	
県立六戸高等学校 教務主任	種 市 誠	
県立三本木農業高等学校 教頭	円 子 昭 浩	
県立三本木農業高等学校 教頭	太 田 良 孝	
県立三本木農業高等学校 事務長	柴 田 富由紀	
県立三本木農業高等学校 教務主任	佐々木 伸 介	
県立三本木農業高等学校 農場長	佐々木 篤	

4 上北地区統合校開設準備委員会の協議経過

回	年 月 日	内 容
1	令和元年 5月16日	○上北地区統合校における目指す人財像について ○上北地区統合校の学校像について ○校名案の決定方法について
2	令和元年 7月29日	○特色ある教育活動の方向性について ○普通科と農業科の連携の方向性について ○部活動の方向性について ○統合対象校間の連携の方向性について ○校名案の方向性について
3	令和元年 9月12日	○校名案の方向性について ○校訓・校章・校歌・制服の方向性について ○統合対象校の記念物品の展示について ○統合対象校の事務の引継ぎについて
4	令和元年12月25日	○校名案の方向性について ○上北地区統合校開設準備委員会報告書（案）について

5 上北地区統合校校名案候補意見募集の結果

○意見募集期間

令和元年10月1日（火）から令和元年10月30日（水）まで（30日間）

○意見提出者数及び件数

意見提出者数 177人

校名案候補に対する意見 190件

その他校名案候補に関する意見 17件

